

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成25年4月12日
【四半期会計期間】	第51期第3四半期（自平成24年12月1日至平成25年2月28日）
【会社名】	株式会社ニイタカ
【英訳名】	Niitaka Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 森田 千里雄
【本店の所在の場所】	大阪市淀川区新高一丁目8番10号
【電話番号】	06(6391)3225
【事務連絡者氏名】	経営企画部長 宮川 徹
【最寄りの連絡場所】	大阪市淀川区新高一丁目8番10号
【電話番号】	06(6391)3225
【事務連絡者氏名】	経営企画部長 宮川 徹
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第50期 第3四半期連結 累計期間	第51期 第3四半期連結 累計期間	第50期
会計期間	自 平成23年6月1日 至 平成24年2月29日	自 平成24年6月1日 至 平成25年2月28日	自 平成23年6月1日 至 平成24年5月31日
売上高(千円)	9,089,763	9,506,809	12,238,071
経常利益(千円)	371,954	503,722	488,906
四半期(当期)純利益(千円)	176,587	307,420	231,810
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	173,069	337,611	228,243
純資産額(千円)	6,223,220	6,509,468	6,278,312
総資産額(千円)	12,015,263	12,484,685	11,826,413
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	29.91	52.07	39.26
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	51.8	52.1	53.1

回次	第50期 第3四半期連結 会計期間	第51期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自 平成23年12月1日 至 平成24年2月29日	自 平成24年12月1日 至 平成25年2月28日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	7.64	19.60

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社の異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当社は平成24年11月9日開催の取締役会において、つくば工場隣接土地・建物購入を決議し、平成24年12月5日につくば工場隣接土地・建物購入の契約を締結しました。主な契約内容は以下のとおりであります。

所在地	内容	土地面積(m ²)	建物面積(m ²)	取得価額 (百万円)	引渡日
茨城県龍ヶ崎市	第2工場棟 土地・建物	19,587.36	3,974.63	471	平成24年12月19日

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要が一巡したこともあり、国内需要に陰りが見え始めましたが、新政権の経済政策への期待感により円安・株高が進行し、経済成長への期待が高まってきました。

一方で、円安による原材料・燃料価格の高騰が見込まれることや、欧州債務危機や中国経済の鈍化など、企業を取り巻く環境は、依然として先行きが不透明な状況となっております。

このような環境下、当社グループは、三方良し（買い手良し、世間良し、売り手良し）の製品・サービスの開発・拡充に努めるとともに販売活動の強化を図ってまいりました。その結果、主力製品で一定の拡販ができました。また、株式会社ユーホーニイタカの売上高も加わり、（株式会社ユーホーニイタカは、平成23年7月1日に営業を開始し、売上高及び損益は、前第2四半期連結累計期間から発生しており、前第1四半期連結累計期間には実績がありません。）当第3四半期連結累計期間の売上高は、9,506百万円（前年同四半期比 4.6%増）となりました。

利益につきましては自社製造品の売上増加とコスト削減に努めた結果、営業利益は、486百万円（前年同四半期比 26.7%増）、経常利益は、503百万円（同35.4%増）、四半期純利益は、307百万円（同74.1%増）となりました。

(2) 財政状態

当第3四半期連結会計期間末の財政状態は次のとおりであります。

(資産)

資産は前連結会計年度末と比較して658百万円増加し、12,484百万円となりました。主には、「現金及び預金」が250百万円、有形固定資産「土地」が298百万円、投資その他の資産「その他」が128百万円、それぞれ増加しました。

(負債)

負債は前連結会計年度末と比較して427百万円増加し、5,975百万円となりました。主には、「短期借入金」が200百万円、「長期借入金」が441百万円それぞれ増加し、「退職給付引当金」が69百万円、固定負債「その他」が104百万円それぞれ減少しました。

(純資産)

純資産は前連結会計年度末と比較して231百万円増加し、6,509百万円となりました。主には、四半期純利益307百万円の増加、配当金の支払が106百万円であります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

課題と対処方針

当社グループが主に依拠するフードビジネス業界は、長期化するデフレ経済や少子高齢化等の影響を受けて市場規模が縮小し、企業間競争が激化しております。

このような状況のなかで、デフレ経済に起因する、お客様の低価格指向への対応として、高機能品、レギュラー品の充実に加えて、価格対応品の品揃えを進め、多様なご要望にお応えしてまいります。また、グループ工場間で連携し、効率的な生産体制を構築し、コストパフォーマンスの高い製品を提供してまいります。

さらに、食の安全・安心と環境への配慮を始めとして、企業に求められる社会的責任の範囲がますます広がるにつれ、コーポレート・ガバナンス、コンプライアンス等を重視する姿勢と行動がさらに求められており、これらの取り組みは、企業の成長と存続を左右する重要な課題となっております。

以上のように当社グループが対処すべき領域は広く、課題は多岐に亘りますが、中期経営計画に取り込み、年度ごとに詳細な業務計画を立てて推進してまいります。課題が多いとはいえ、これらはあらゆる企業に共通に求められるものであり、迅速かつ適切に対応できれば他社との差別化を図ることができ、成長のチャンスとも考えられます。

会社の支配に関する基本方針について

当社における「株式会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針」（以下「会社の支配に関する基本方針」といいます。）の概要は次のとおりであります。

会社の支配に関する当基本方針

当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方としては、当社の企業理念、企業価値のさまざまな源泉、当社を支えるステークホルダーとの信頼関係を十分に理解し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を中長期的に確保・向上させる者でなければならないと考えております。

一方、上場会社である当社の株式は、株主、投資家の皆様による自由な取引が認められており、当社の株式に対する大規模買付提案又はこれに類似する行為があった場合においても、一概に否定されるものではなく、最終的には株主の皆様による自由な意思により判断されるべきであると考えます。

しかしながら、株式の大規模買付提案の中には、濫用目的によるものや、株主の皆様による株式の売却を事実上強要するおそれのあるもの等、企業価値ひいては株主共同の利益を毀損するおそれのあるものも想定されます。

企業価値ひいては株主共同の利益を毀損するおそれのある不適切な大規模買付提案又はこれに類似する行為を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であると考えます。

会社の支配に関する基本方針の実現に資する取組みの概要

イ。「中期経営計画」による企業価値向上への取組み

当社は、企業価値の向上を図るため、中期経営計画「NIP Q」（Niitaka Innovation Plan Q）を継承する中期経営計画「NIP Q」を策定する予定です。

なお、新中期経営計画の策定では、引き続き「『三方良し』の製品・サービスで食の安全・安心に貢献する質の高い企業を目指す」を基本方針とし、シェア拡大と利益確保 競争力の強化 企業体質の強化を主要課題に掲げております。買い手（販売店、ユーザー）と世間（社会、環境）のお役に立つ製品とサービスを提供することは、売り手（当社グループ）にも利益をもたらします。社会に必要とされる企業としてあり続ける努力を重ね、さらなる企業価値向上に取り組み、業界ナンバーワンを目指します。

ロ.コーポレート・ガバナンスに関する取組み

当社は、継続的に企業価値を高めることを目指し、コーポレート・ガバナンスを強化し、経営効率の向上及び経営の健全性の向上に努めております。

当社は、監査役制度を採用しております。取締役会、監査役会、監査法人、監査室の各機関が相互に連携する体制を確保することはもとより、CSR委員会を設置し、コンプライアンスの徹底及びリスク管理の充実を図るほか、年次で策定する監査計画に沿って内部統制監査を実施し、業務全般における内部統制が有効となるよう努めております。

当社取締役会は、原則として1ヶ月に1回開催（監査役も毎回出席）し、取締役会規程に定められた詳細な付議事項について十分な審議を行っております。

当社は、これらの取り組みとともに、株主の皆様をはじめ、従業員、取引先等ステークホルダーとの信頼関係をより強固なものにし、企業価値の安定的向上を目指してまいります。

会社の支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止する取組み

当社は上記基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止する取組みとして「当社株式の大規模買付行為に関する対応策（買収防衛策）」（以下「本プラン」といいます。）を導入しております。

本プランでは、当社株式に対し20%以上の大規模買付行為（市場取引、公開買付け等の具体的な買付方法の如何を問わないものとし、あらかじめ当社取締役会が同意したものを除きます。）を行おうとする者（以下「大規模買付者」といいます。）が大規模買付行為実施前に遵守すべき、大規模買付行為に関する合理的なルール（以下「大規模買付ルール」といいます。）を定めております。大規模買付ルールは、当社株主の皆様が大規模買付行為に応じるか否かを判断されるために必要な情報や、当社取締役会の意見を提供し、さらには当社株主の皆様が当社取締役会の代替案の提示をお受けいただく機会を確保することを目的としております。当社取締役会は、大規模買付者に対し、大規模買付行為についての評価・検討に必要なかつ十分な情報を当社取締役会に提供することを要請し、当該情報の提供完了後、大規模買付行為の評価・検討のための期間を設定し、当社取締役会としての意見形成や必要に応じ代替案の策定を行い、公表することとしております。したがって、大規模買付行為は、取締役会の評価・検討の期間の経過後にのみ開始されるものとします。大規模買付者が、大規模買付ルールを遵守した場合は、当社取締役会は、当該大規模買付行為が、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく毀損することが明白と判断される場合を除き、対抗措置をとりません。ただし、大規模買付者が、大規模買付ルールを遵守しなかった場合、遵守しても大規模買付行為が当社に回復し難い損害をもたらすなど、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なうと判断される場合には、当社取締役会は、当社企業価値ひいては株主共同の利益を守ることを目的として、必要性・相当性の範囲で会社法その他の法律及び当社定款が認める対抗措置をとり、大規模買付行為に対抗することがあります。

本プランは、平成22年8月27日に開催の当社第48回定時株主総会において株主の皆様にご承認をいただき継続しており、その有効期限は平成25年8月に開催予定の当社定時株主総会終結時までとなっております。

本プランが、基本方針に沿うものであり、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を損なうものではなく、当社役員の地位の維持を目的とするものではないことについて

上記の会社の支配に関する基本方針の実現に資する取組みは、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を向上させるための施策であり、まさに会社の支配に関する基本方針に沿うものであります。

また、本プランは、(イ)買収防衛策に関する指針（注1）の要件を充足していること(ロ)株主共同の利益の確保・向上の目的をもって導入されていること(ハ)合理的な客観的発動要件の設定をしていること(ニ)独立性の高い社外者の判断の重視と透明な運営が行われる仕組みが確保されていること(ホ)株主意思を重視するものであること(ヘ)デッドハンド型買収防衛策（注2）やスローハンド型買収防衛策（注3）ではないこと等、会社の支配に関する基本方針に沿い、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に合致し、当社役員の地位の維持を目的とするものではないと考えております。

- (注) 1. 「企業価値・株主共同の利益の確保又は向上のための買収防衛策に関する指針」（平成17年5月27日 経済産業省・法務省）を指します。
2. デッドハンド型買収防衛策 取締役会の構成員の過半数を交替させてもその発動を阻止できない買収防衛策
3. スローハンド型買収防衛策 取締役会の構成員の交替を一度に行うことができないため、その発動を阻止するのに時間を要する買収防衛策

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における、研究開発費は220,652千円であります。

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

なお、製品企画力向上のため、製品企画業務を研究開発部門より新設のマーケティング部へ移管しております。

(5) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間において、新たに確定した重要な設備の新設計画は以下のとおりであります。

会社名 事業所名	所在地	設備の内容	投資予定額 (百万円)		資金調達 方法	着手及び 完了予定年月		完成後の 増加能力
			総額	既支払額		着手	完了	
提出会社 つくば工場	茨城県 龍ヶ崎市	第2工場棟及び 洗剤ボトル生産設備	812	471	自己資金 及び 借入金	平成24年12月	平成25年6月	洗剤ボトル70 万本/年
提出会社 つくば工場	茨城県 龍ヶ崎市	太陽光発電設備	77		自己資金	平成25年1月	平成25年6月	発電規模 194kW

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種 類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,900,000
計	16,900,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年2月28日)	提出日現在発行数(株) (平成25年4月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	5,943,052	5,943,052	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数100株
計	5,943,052	5,943,052	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成24年12月1日～ 平成25年2月28日	-	5,943,052	-	585,199	-	595,337

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年11月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年2月28日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 38,700	-	単元株式数100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,886,900	58,869	同上
単元未満株式	普通株式 17,452	-	-
発行済株式総数	5,943,052	-	-
総株主の議決権	-	58,869	-

(注)「完全議決権株式(その他)」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が100株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数1個が含まれております。

【自己株式等】

平成25年2月28日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社ニイタカ	大阪市淀川区新高一丁目8番10号	38,700	-	38,700	0.65
計	-	38,700	-	38,700	0.65

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成24年12月1日から平成25年2月28日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年6月1日から平成25年2月28日まで）に係る四半期連結財務諸表について、ペガサス監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	993,126	1,243,236
受取手形及び売掛金	2,676,137	2,672,505
商品及び製品	572,322	596,565
仕掛品	42,792	52,456
原材料及び貯蔵品	358,157	338,427
その他	175,315	180,558
貸倒引当金	3,665	3,660
流動資産合計	4,814,187	5,080,089
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,625,809	2,552,990
土地	2,034,341	2,332,985
その他(純額)	1,163,991	1,227,863
有形固定資産合計	5,824,142	6,113,838
無形固定資産		
のれん	20,498	18,790
その他	159,387	137,218
無形固定資産合計	179,885	156,008
投資その他の資産		
その他	1,015,215	1,143,875
貸倒引当金	7,017	9,127
投資その他の資産合計	1,008,198	1,134,748
固定資産合計	7,012,226	7,404,596
資産合計	11,826,413	12,484,685
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,010,771	1,065,138
ファクタリング債務	1,277,606	1,340,840
短期借入金	650,000	850,000
未払法人税等	133,600	88,445
その他	1,134,813	1,019,884
流動負債合計	4,206,791	4,364,308
固定負債		
長期借入金	-	441,419
退職給付引当金	885,640	816,091
役員退職慰労引当金	205,558	207,449
その他	250,111	145,948
固定負債合計	1,341,309	1,610,908
負債合計	5,548,101	5,975,216

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年2月28日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	585,199	585,199
資本剰余金	595,337	595,337
利益剰余金	5,207,981	5,409,123
自己株式	49,900	50,076
株主資本合計	6,338,618	6,539,583
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	33,006	14,263
為替換算調整勘定	27,299	15,851
その他の包括利益累計額合計	60,305	30,114
純資産合計	6,278,312	6,509,468
負債純資産合計	11,826,413	12,484,685

(2) 【 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【 四半期連結損益計算書】

【 第 3 四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成23年 6 月 1 日 至 平成24年 2 月29日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成24年 6 月 1 日 至 平成25年 2 月28日)
売上高	9,089,763	9,506,809
売上原価	5,514,078	5,677,542
売上総利益	3,575,685	3,829,267
販売費及び一般管理費	3,191,590	3,342,635
営業利益	384,094	486,631
営業外収益		
受取利息	378	409
受取配当金	4,318	4,997
受取手数料	4,099	2,987
消費税差額	-	6,951
為替差益	-	6,473
その他	5,588	9,417
営業外収益合計	14,385	31,236
営業外費用		
支払利息	11,258	10,709
投資事業組合運用損	2,445	535
為替差損	2,744	-
開業費償却	8,223	-
その他	1,851	2,900
営業外費用合計	26,524	14,145
経常利益	371,954	503,722
特別利益		
保険解約返戻金	-	4,820
負ののれん発生益	19,014	-
その他	-	178
特別利益合計	19,014	4,998
特別損失		
たな卸資産廃棄損	5,419	7,029
固定資産除売却損	180	354
その他	-	901
特別損失合計	5,600	8,285
税金等調整前四半期純利益	385,368	500,435
法人税等	208,780	193,015
少数株主損益調整前四半期純利益	176,587	307,420
四半期純利益	176,587	307,420

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年6月1日 至平成24年2月29日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年6月1日 至平成25年2月28日)
少数株主損益調整前四半期純利益	176,587	307,420
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,655	18,743
為替換算調整勘定	6,173	11,447
その他の包括利益合計	3,518	30,191
四半期包括利益	173,069	337,611
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	173,069	337,611
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【会計方針の変更】

(減価償却方法の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年6月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これにより当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益それぞれに与える影響額は軽微であります。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成24年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年2月28日)
偶発債務 当社は、債権管理事務のアウトソースを目的として、食器洗浄機に係るレンタル債権の一部をリース会社に売却いたしました。当該債権に関する買戻義務3,014千円を有しております。	偶発債務 当社は、債権管理事務のアウトソースを目的として、食器洗浄機に係るレンタル債権の一部をリース会社に売却いたしました。当該債権に関する買戻義務803千円を有しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりです。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年6月1日 至平成24年2月29日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年6月1日 至平成25年2月28日)
減価償却費	534,795千円	479,406千円
のれんの償却額	1,708千円	1,708千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成23年6月1日至平成24年2月29日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年7月25日 取締役会	普通株式	53,140	9.00	平成23年5月31日	平成23年8月29日	利益剰余金
平成24年1月16日 取締役会	普通株式	53,140	9.00	平成23年11月30日	平成24年2月13日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成24年6月1日至平成25年2月28日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年7月25日 取締役会	普通株式	53,139	9.00	平成24年5月31日	平成24年8月27日	利益剰余金
平成24年12月27日 取締役会	普通株式	53,138	9.00	平成24年11月30日	平成25年2月12日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成23年6月1日至平成24年2月29日)

当社グループは、業務用の化成品事業を行っており、単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年6月1日至平成25年2月28日)

当社グループは、業務用の化成品事業を行っており、単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年6月1日 至平成24年2月29日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年6月1日 至平成25年2月28日)
1株当たり四半期純利益金額	29円91銭	52円7銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	176,587	307,420
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	176,587	307,420
普通株式の期中平均株式数(株)	5,904,514	5,904,347

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成24年12月27日開催の取締役会において、次のとおり剰余金の配当を行うことを決議いたしました。

(イ) 配当金の総額・・・・・・・・・・53,138千円

(ロ) 1株当たりの金額・・・・・・・・・・9円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日・・・平成25年2月12日

(注) 平成24年11月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行いました。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年4月12日

株式会社ニイタカ
取締役会 御中

ベガサス監査法人

指定社員 業務執行社員	公認会計士	安原 誠吾	印
指定社員 業務執行社員	公認会計士	松山 治幸	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ニイタカの平成24年6月1日から平成25年5月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年12月1日から平成25年2月28日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年6月1日から平成25年2月28日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ニイタカ及び連結子会社の平成25年2月28日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれておりません。